

改訂第2版の序

本書は、『栄養科学イラストレイテッド』シリーズの1つ「解剖生理学 改訂第2版」の演習版です。「解剖生理学」は2010年に初版が刊行されてからほぼ5年が経過し、この度、改訂版が発行されることになりました。しかし、基本的なコンセプトや編集方針は変わっていません。本書は、管理栄養士にとって大切な「人間栄養を理解するための解剖生理学」という考えに基づいて、人体の全体像を栄養と関連づけて理解するのに役立つよう、人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解することをめざしています。姉妹版のテキストでは、栄養とかかわり深い主要疾患を中心に解説した「臨床への入門」の欄も設けられています。

一方、2010年末には「管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）」が改定され、以後これに則って国家試験が行われてきましたが、初版ではこの改定とその後の状況を十分に反映できていない部分がありました。さらに、近年、山中伸弥教授のノーベル賞受賞対象研究のように、医学・健康科学分野では日進月歩の進展が続き、諸疾患の診療ガイドラインの改定も行われてきました。

そこで、「解剖生理学 改訂第2版」では、まず、ガイドラインに沿って内容を見直すとともに、ブラッシュアップを図りました。また、用語の表記は管理栄養士国家試験に合わせたものに統一しました。一例をあげれば、proteinの日本語表記としてはタンパク質や蛋白質が広く一般に用いられていますが、「解剖生理学 改訂第2版」ではたんぱく質としました。実際の管理栄養士国家試験では、医学・健康科学分野の研究の進歩や疾患診療の新しいガイドラインを取り入れた出題も見受けられるので、これらもできるだけ取り入れられています。このような経緯で発行された「解剖生理学 改訂第2版」を忠実に踏襲して、この演習版も改訂を行いました。

管理栄養士は、食・健康と栄養の分野のプロです。プロに必要な豊かな応用力は、確かな基礎力の上に築きあげられます。スポーツの世界も同じで、プロとアマ（素人）の違いは、基礎力、それを育むトレーニングです。この自学自習用演習版は、トレーニングによる記憶のストックづくり、また、“なぜだろう、ああそうか、なるほど、だとすると…”という知的トレーニングにも役立つはずで、ぜひ活用して下さい。

なお、本書の内容・記述については、誤り等がないよう努めて参りましたが、本書をよりよいものとできるよう、もしお気づきの点等があればぜひご指摘・ご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

最後に、本改訂版の発行にあたり大変お世話になった羊土社編集部の関家麻奈未様、伊藤慶子様はじめご関係の皆様から感謝いたします。

2014年10月

志村二三夫
岡 純
山田 和彦